

会報

82号



函館の歴史的風土を守る会会報

No82 H21. 9. 1

発行所 函館の歴史的風土を守る会

事務局 函館市五稜郭町43-9

五稜郭タワー株式会社内

電話(0138) 51-4785

印刷所 (有)三和印刷 電話 45-0845

開港5都市景観まちづくり会議終わる！

平成20年10月10～12日、第14回の「開港5都市景観まちづくり会議」が函館市で開催された。横浜・神戸・長崎・新潟・函館がペリー提督（米国）の来航で開港された因縁で毎年回り番で開催されている。函館開催は3回目である。函館は開港150年の記念事業のプレイベントとして位置づけられ、市内外各界の援助に支えられ、前回同様「歴風会」が実行委員長を仰せ付かった。他都市より65名の参加者を迎え、計186名で会議は盛大裡のうちに終了出来た。今年は9月11～13日横浜市で開催、当市より12名の参加を予定している。



市内外の多数の参加者で全体会議も終了

会議スナツプ



深谷宏治氏の基調講演



西部地区を散策した第1分科会



市郊外の史蹟巡りをした第2分科会

平成21年度 歴風文化賞（第26回）

原風景 —宣言文— 亀田川 函館市

横津連峰に連なる袴腰岳（はかまごしだけ）に源を発し、市街地を流れ津軽海峡に注ぐ亀田川。

昔も今も函館市民の重要な飲料水として人々の命を守り、憩いの場として多くの市民に親しまれている。近年はきれいな川となり、川の生物とふれ合う子供たちの姿も見られるようになってきた。更に亀田川は森林からの栄養分を含んだ水により、海の資源も育てる重要な役目も担っている。

亀田川の歴史は、今日まで一緒に歩んだ沿線住民の生活、喜怒哀楽そのものであり、函館の原風景であることをここに宣言する。



保存建築物

高杉 園子 邸

函館市万代町4-25

高杉 園子 様

この建物は昭和3年に木造2階建住宅として建てられた純和風の建築物である。

新潟出身の先代は青果商を営み、広い玄関付近は昭和前期、商いの事務所としても使用されていた。1階には和室が4室設けられており、襖を外すと広大で開放的な空間になり、様々な行事の時は多人数を収容することが可能となっている。また、大勢の来客をもてなすため台所は大きなスペースをとっている。室内の土壁、廊下・階段等の部材、建具等は創建当時のまま美しく保存され、現役で使われている。市街地にありながら、創建時の姿で大切にしっかりと保存されており、昭和初期の函館の住宅の歴史を知る上で貴重な建築物である。

保存建築物

合田中米穀店

函館市亀田町7-9

田中 克幸 様

この建物は、大正7年に木造平屋建、米店兼住宅として建築された。

旧電車道路に面した開放的な店前面の上部は、白と黒のコントラストが印象的な妻飾りが施され、歴史的な佇まいを感じさせる。店より奥の部分は住宅となっており、伝統的な「通し庭」と呼ばれる「通り土間」の一部が現存し、これと並列して左側に茶の間、仏間、座敷等の部屋が配置されている。柱・梁等の主要な構造部の変更はなく、室内の建具等も創建当時のものが使われている。

国道沿いの市街地にありながら、外観、室内とも創建当時の面影を残しており、大正期の函館における伝統的な町屋建築の歴史を知る上で貴重な建築物である。



保存建築物

種田 剛 邸

北斗市中央1-4-10

種田 剛 様

この建物は、大正期に木造平屋建専用住宅として建築された。

外観は下見板張りの外壁、妻側上部の妻飾り、軒裏・屋根の意匠等、創建当初のまま美しくしっかりと保存されている。また柱や梁等の部材の接合には仕口と呼ばれる巧みな技術が施されており、釘が1本も使われていないという特長がある。5つの和室、それに付属する床の間、囲炉裏、建具等も創建当時の美しい佇まいのままである。

北斗市の中心部に位置しているが、創建当時の姿で保存され、北斗市における大正期の住宅の歴史を知る上で貴重な建築物である。



団体賞

北の縄文CLUB

函館市白尻町603-1

会長 桜井 弘之 様

平成10年に南茅部地区で縄文遺跡発掘作業に従事する女性を中心に発足した会である。（会員約70名）会の目的は、豊かな自然とともに生きた縄文の精神と文化を学び、様々な研究活動を行ない、北の縄文文化を広く普及することである。

活動内容は、縄文土器の制作体験、アンギン編み講習会、大船遺跡清掃作業など幅広い分野にわたり、活動をまとめた「北の縄文CLUB」通信も毎年発行している。

これらの地域に根ざした縄文の精神と文化を伝承する多彩な活動は、函館の郷土文化の向上に大きく貢献している。

歴風文化賞選定基準

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1. 建造物自体の貴重性 | 5. 地域の町並みや社会全般への波及効果が大きい |
| 2. 持ち主が長年保存への努力を続けている | 6. 諸々の制約の中で創意工夫が顕著である |
| 3. 景観への寄与 | |
| 4. 歴史的性 | |

平成22年度『第27回歴風文化賞』の

応募を受付けております!!

- ◆原風景 ◆団体 ◆個人
- ◆保存建築物 ◆再生建築物
- ◆特別賞

自薦・他薦結構です
※切は平成21年11月末

担当は 対馬 誠(46)8104
落合治彦(73)2008
石井 満(41)5126



謝辞を述べる山本部長



阿部前市会議長の乾杯

実行委員長あいさつ

実行委員長 辰 村 和 子

本日は「第31回函館の町並みを美しくする新春チャリティーパーティー」に、このように沢山の方々のご参加をいただき、有難うございました。今朝は天候が悪く心配いたしましたでしたが、皆様のご精進が良かったお蔭でみぞれも晴れて好天になりました、良かったですね。

さて、私は函館の青柳町で誕生いたしまして80年、昭和9年の大火に会いましたが、また青柳町に居住いたしました。函館が大好きです。

まだ、連絡船で青森＝函館間を往復している頃、朝5時ごろ着の船で帰ってきます、眠い目をこすりながら甲板に出ると、パッと視界が開け、函館山の稜線が、くっきりと朝日に映え、山の中腹には、ドカンと真っ黒な瓦屋根の東別院が見え、その上手には、カトリック教会・ロシア正教・聖ヨハネ教会・キリスト教の異なる宗派の教会と寺院と神社が共存して建っている景色、他に類をみない景観、まことに、美しく、誇らしく、目映い光景です。

また、山裾には、高龍寺・称名寺・実行寺・東・西・両本願寺別院・高野寺等各宗派の歴史ある寺院が点在しております。

函館は夜景が一番と言われますが、この美しい景観は日本の誇りうる文化として市民は情報発信していかなければと思います。

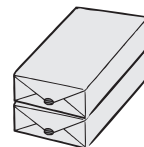
この、美しい景観を保つために、西部地区の保育所・小学校・中学校・高校・極東大の児童生徒が自主的に



歴風文化賞の表彰式



チャリティーパーティ・オークションの商品のご提供
ありがとうございました



第31回函館の町並みを美しくする新春チャリティーパーティーへの商品のご提供に御礼申し上げます。

函館山ロープウェイ株式会社、北海道コカコーラボトリング株式会社、中島孝内科循環器科医院、やま内科胃腸科医院、五稜郭タワー株式会社、有限会社日昇商事、POPくらぶ、株式会社元町マリンハウス、平野建業株式会社、リープズ・ハコダテ、函館東興株式会社、潮産業株式会社、函館トヨペット株式会社、小田島水産食品株式会社、函館トヨタ自動車株式会社、北海道製菓株式会社、株式会社オオタカ函館、函館三菱自動車販売株式会社、株式会社五島軒、カメラの二セコ、近藤商会株式会社、今整形外科、飯田金光堂、歴風会会員の皆様
(順不同・敬称略)

合同で清掃活動や観光案内をし、秋には地域の人々も交えて、文化の交流会を開き、一丸となって美しい町並みにしようと努力されております。有難いことですね、感謝の意を表します。

ご参会の皆様も、函館を愛し、美しい街函館をピーアールして、転勤していらした方や観光客に、真心をもって接し、あたたかい街のイメージを持って戴くように努めましょう。

終りに歴風会のますますのご発展と、ご参会の皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げご挨拶といたします。



あいさつする辰村実行委員長（右、小松副実行委員長）

副実行委員長あいさつ

副実行委員長 小 松 基 衛

今晚は、「第31回函館の町並みを美しくする新春チャリティーパーティー」の副実行委員長の小松でございます。本日はこのようにたくさんの方々にお出で頂き誠に有難うございます。心より感謝申し上げます。

私事で恐縮ですが、私は一昨年7月、妻と二人で私たちのヨット「マイウェイ」に乗り、函館を出港し47日かかってアメリカのサンフランシスコに到着しました。その後、西海岸を南下した後、ハワイ、父島などを経由し昨年6月に函館に戻って参りました。津軽海峡に入って11ヶ月ぶりに見えてきた函館山と函館の町並みは、それまで何度もみた光景ではありましたが、この時ほど素敵に見えたことはありませんでした。函館で生まれて、函館で育って良かったという思いと同時にこの景観をこれからも大事にしたいという思いがこみ上げてきました。そのようなことを考えますと、「歴風会」の活動は今後益々重要になっていくのではないかと思います。今日、ご来場の皆様方、これからも「歴風会」の活動に際し絶大なるご協力とご支援をお願いしまして私の挨拶に代えさせていただきます。

受賞者代表謝辞（第31回）

高 杉 園 子
代理 高 杉 俊 晴

本日は、第26回「歴風文化賞」の表彰にあたり、受賞者一同になり代わりまして、御礼のご挨拶を申し上げます。

今年は函館開港150周年の年にあたりますが、その年に「歴風文化賞」の保存建築物として3件

（田中米穀店、種田剛邸、高杉園子邸）および団体

賞として「北の縄文CLUB」、さらに原風景として「亀田川」が選定されました事は、誠に感慨深いものがあります。

当方の建物が今回選定されましたのは、昨年10月に貴会の対馬さんが突然当方を訪ねてきて、貴会の活動を説明され、当方の建物について話をした事がきっかけでした。

申し訳ない事ですが、それまで当方は貴会について何も知らず、早速インターネットで貴会の活動について調べたところ、貴会は昨年創立30周年を向かえた歴史有る会であるだけでなく、その設立趣旨は、現在では函館の観光資源の1つとなった西部地区の歴史的に重要な建築物と町並みを保存する事の重要性を指摘した事で、そしてそれは、現在、関連する市条例の制定となって結実している事を知り、深い感銘を受けました。

ところで私事です、私は今高龍寺の世話方の一人として修復委員会を担当しています。ご存知の様に高龍寺は、7堂伽藍よりなる寺院で、最も早く建築された本堂と開山堂は明治34年に入仏式が行われました。建築から110年近く経過し、傷みがひどいお堂もあり、修復にあたり最初に行ったのは、高龍寺の建築物について歴史的評価を行う事で、この評価を近代建築物に関する第一人者である東京大学大学院工学系研究科の藤井恵准教授のチームに依頼し、平成19、20年に行いました。

調査の結果、函館と北前船通商で関係のあった新潟柏崎の名工、四代目篠田宗吉善則（1827－1903）が晩年に棟梁を務めた建築物であるだけでなく、江戸時代



に確立された木造建築を近代に伝えている事、大火から建物を守るためのレンガ造りの防火壁等近代史において重要な建築物である事が判明しました。

この調査結果を元に市教育委員会とも打ち合わせを行い、修復は出来るだけ創建当初の意匠を踏襲するだけでなく、補修方法および補修に使用される材料も創建当初の状況を考慮して行う事としました。

この様に函館には、北海道発展において地理的な要因および歴史的な要因から日本の近代史において重要な建築物が数多くあると考えますので、ますます皆様のご活躍により後世に伝えて行ければと考えます。



「函館賛歌」を指揮する辰村実行委員長

歴風会30周年を祝して

努力無くして遺産は残らない

北海道国際交流センター代表理事 山崎文雄様



ヨーロッパを旅行すると街のいたるところに保存された遺蹟があり、近くに寄ったり、中へ入ると何か不思議な語りかけを感じることがある。崩壊状態にあるローマ時代の遺蹟に対して現地の人たちはそれなりのいとおしさを感じているようだ。我々日本人と比較すると古いものに対する価値判断はかなり違っている印象をうける。日本人はどちらかと云うと古いものを壊して新しくするのが好きで、一般的に築後の年数が少ないほど評価が高いが、ヨーロッパでは古ければ古いほど値が高く、これに手を加えて、利用することに誇りを感じている人が多いようだ。勿論石と木の文化の違いがあるが、例えば石であっても放置すれば崩壊するのは当然で、ドイツのケルンにある巨大な礼拝堂などいつ出かけてもかならず修理している。だからこそ数百年の歴史を経て今も語り続け、多くの人達に感動を呼び起すのであろう。木造でも同じである。残す努力により歴史が重なり、価値を生む。例えば長屋の家であっても、努力により200年も

維持すれば、立派な歴史遺産であろう。

私が卒業した小学校も中学校も高校も、全て新しく作り変えられた。一度は訪れたが今は行きたくもない。経験は押しつぶされて、何の感慨もわいてこない。只空しさがこみあげるだけである。例えば新しい校舎の中で古い校舎を思い浮かべて見ても意味がない、古い校舎を語ってみても只空しいだけであろう。経験は校舎と共に全て消えている。文化は語り継がれて生きるものであり、語られなければ死滅するだけだ。建造物は残す努力があれば、不思議な力で多くの人に語りかけるものであろう。それが文化の香りであり、街の香となるに違いない。伊勢神宮は20年ごとに寸分変えずに立て替えている。形を変えては文化が育たない事を知っていることであろう。耐用年数などと云って壊しては心の継承などあり得ない。古い建物が壊されて次々に新しい耐用年数のある建物に変えられては文化の香りは残らない。どんなに立派な建物も残す努力なくして妙な遊戯場に変身しては、感動する人はいないはずである。努力なくして心を豊かにする文化遺産や産業遺産は残らない。

歴風会の会長さんをはじめ会員の皆さんによる30年に亘る保存努力は函館文化の継承に大きな貢献をされました。会員の皆様には心より敬意を表したいと思います。

第6回 ふるさと写真展 開催



平成21年2月12～18日函館駅イカすホールで、小・中学生による写真公募による、第6回「ふるさと写真コンクール」が開催された。

応募点数は過去最多の191点で、事前審査で次表の入賞者が決まり、同15日に会場で受賞者の父兄も参加し表彰式が行われた。6日間の期間中約1550名の来場者で賑わった。

3月3～10日まで地域交流まちづくりセンターで展示された後、同12～23日市電内に展示された。年々応募点数も増加し事業として定着して来ている。

《入賞者氏名》（敬称略）

- | | | | | |
|--------|---------------|------------------|-----------------|------------------|
| ▶金賞 | 佐々木 暁登(附属中1年) | 足立 紗彩(亀田小3年) | | |
| ▶銀賞 | 河上 桃子(桐花中1年) | 杉之原 萌衣(亀田小3年) | 足立 紗彩(亀田小3年) | 大野 耕太郎(函ラサール中2年) |
| | 浜道 万佑(磨光小6年) | | | |
| ▶銅賞 | 吉田 七海(大川中2年) | 水島 裕美(潮見中1年) | 東 実杜樹(西中3年) | 浜道 万佑(磨光小6年) |
| | 笹森 宥穂(中央小5年) | 岩崎 優也(金堀小4年) | 工藤 千尋(昭和小5年) | |
| ▶佳作 | 柳沢 瑞希(亀田小3年) | 寺澤 望里(浜分小3年) | 東 実杜樹(西中3年) | 鈴木 岳流(東山小5年) |
| | 中村 元紀(北日吉小1年) | 石崎 東(七重小6年) | 高畠 宏規(函ラサール中1年) | 石幡 智春(函ラサール中2年) |
| | 石崎 東(七重小6年) | 大野 耕太郎(函ラサール中2年) | | |
| ▶歴風文化賞 | 下野 里奈(附属中1年) | | | |
| ▶交通局長賞 | 石崎 東(七重小6年) | | | |
| ▶特別賞 | 木村 朱(東小4年) | | | |

彌生小学校学舎が語ることー近代函館建築の金字塔

神戸女学院大学講師・博士（学術・建築学） 川 島 智 生

1. 86年前の提言

「英国イートン中学校が数百年前の旧建築物を踏襲し、而してニュートンやネルソンやグリッドストーンの起居した教室、其の机卓の今尚を旧形を存し、以て暗々裡に現代青年を刺激するのみならず、無数の卒業生をして、愛校の美風を起さしむるか如き、一に耐久性校舎に因るものと申されて居り」

とは、86年前の大正12（1923）年5月9日付けで函館市長に提出された函館教育会の建議書である。函館新聞の5月11日号に掲載された。この時期、谷地頭小学校建設をめぐって、不燃質建築とするべく請願が出される。その中心にいたのが、のちに函館図書館館長になる岡田健蔵だった。この時期に市議員をつとめた岡田健蔵は市議会ならびに新聞紙面で積極的な推進を図るが、完成予想図まで示された鉄筋コンクリートブロック造校舎の実現は叶わずに、木造校舎が建設されることになる。

弥生小学校の改築を考える際に、上述の言説は身につまされる指摘を含んでいる。もちろんこれはひとり函館の小学校だけではあるまい。戦後の日本の小学校建築、いや公共の建築物全体が陥った問題でもある。だが、考えてみても現代ほど「愛校」の精神性が問われている時代はないだろう。同時にわれわれのアイデンティティの問題もある。そんな時に、母校がなくなることにはある意味で精神の危機でもある。母校とは一般に各自が学んだ時の校舎の建築を意味する。

今回用いられる手法は、函館市の景観形成指定建築物ゆえに、規模は小さくなるが、外観をほぼそっくりに復元するというものである。その先例を函館は2つの建物でおこなってきた。ひとつはウイニングホールとして再現された森屋百貨店（金森デパート）であり、もうひとつは函館市立臨海研究所として再現の水上警察署である。両者ともに外観のみ元の建物にそっくり復元するものであるが、オーセンティシティ（真実性）という観点ではもはや歴史的建造物には該当しない。この手法が弥生小学校でも用いられようとしている。母校がなくならないまでも、校舎がすっかり別のものになってしまうことは、歴史の連続性を断ち切ることを意味する。同じ形の建築にするから、景観は守れる

という主張には無理があろう。

とりわけ小学校とは子供たちの原風景になるべき性格をもつ建造物であって、英国イートン中学校のように日常的に使用される教室が歴史的な空間であるという、贅沢さこそが必要なのではないかと思える。また、その校舎は卒業生には記憶を蘇らせる装置であり、アイデンティティを確かめる存在でもある。ちなみに岡田健蔵は弥生小学校に通った子供のひとりだった。詩人石川啄木はその後に臨時の代用教員をつとめた。

2. 戦前の鉄筋コンクリートの価値

昭和12（1937）年12月9日に着工され、昭和13（1938）年12月25日に完成した。建設された当初には、毀されることなんて想像すらつかなかったに違いない。なぜならこの建物は「半永久建造物」として、建設されたからだ。鉄筋コンクリート造は戦前まではきわめて高額なもので、木造校舎に比して約二倍の建設費を要した。

函館は昭和9（1934）年3月21日の大火災で市街地の過半を焼失し、防火建築として5校の小学校が鉄筋コンクリート造で建設される。弥生小学校はその時の火災は遁れ得たために、正確には復興小学校ではないが、5校の復興小学校が完成した後に建設される。5校の小学校の設計を経て、その設計内容はいわば函館市建築課の集大成ともいう位置づけにある。そのことは48万7881円という群を抜いた工費に表れている。すなわち、弥生小学校の校舎は、戦前期函館市が築き得た建造物のなかでも、最高建築のひとつである。

函館はこの頃より経済都市としては停滞がはじまる。建築とは一般に経済力を反映することが多い。この建物は函館がわが国を代表する北の大都市であった時の、いわば栄光の残照ともいえる。

戦前期までの鉄筋コンクリート造建築物は戦後、現在に至るまでのものよりも耐震性を優れるといえ、驚かれるが、真実はこのとおりである。実際に1995年に起きた阪神大震災時には戦前期の鉄筋コンクリート造建築で倒壊事例はゼロであった。毀れた建物は鉄筋コンクリート造に関しては、すべて戦後に建設されたものであった。一部に大正12（1923）年の関東大震災以前に建設されたものもあったが、関東大震災から昭

和14（1935）年までの12年間に建設された建物のもっとも強い。それは関東大震災の被害を鑑み、建設されたからである。

弥生小学校のなかに入り、廊下を歩くとたちまち了解できることは、柱や梁の断面は大きく、その間隔は密に入れられ、しかも梁の端部がアーチ状になって柱に深く結合している点である。耐震性については現在のものに比べて数倍高いことは実証的に確認されているが、その構造手法が現在の耐震の手法とは単純に比較できないために、数値的には一見低く表れる。それをより誇張して毀す口実にされるという哀しさがある。



弥生小学校階段

のものに比べて数倍高いことは実証的に確認されているが、その構造手法が現在の耐震の手法とは単純に比較できないために、数値的には一見低く表れる。それをより誇張して毀す口実にされるという哀しさがある。

3. 防火・耐火の理念が反映された建築

耐震性と並んで、鉄筋コンクリート造のもうひとつの長所は、耐火構造であるということである。弥生小学校では防火・耐火の思想が建築校舎に如実に反映されている。

ブロックプランは一辺が斜線という変形の口の字型であり、敷地の形状に合わせて設計がおこなわれていた。このような手法が採られた背景には、火災の際に建物自体が防火壁となつて、内側のグラウンドに避難した地域住民を守ることが求められたことにあった。ちなみに最初の設計案では山側の敷地の形状に合わせて、屋内体操場の方向が斜めに設置され、上段の運動場の広さを目一杯取ろうとしたもので、全体としては菱形のブロックプランが提示されていた。

防火・耐火の理念は校舎の中央部の街路に面したアーチ状の三連の開口部に端的にみることができる。それは下段のより広い校庭へアクセスする通路であり、その奥には左右に斜路と呼ばれるスロープがつくられ、校庭につながる。そこから建物の奥に広がるグラウンドに逃げ込んだ人々を熱火より鉄筋コンクリートの建物で守ろうとした考えである。現在でも地震や風水害などの災害時には小学校が避難場所になることを考えれば、その先駆けと位置づけることが



弥生小学校校庭通路内部

で守ろうとした考えである。現在でも地震や風水害などの災害時には小学校が避難場所になることを考えれば、その先駆けと位置づけることが

できる。

この建物は単に小学校校舎だけではなく、函館という都市の記憶をもっとも体現する建物と捉えられる。というのも、近代函館を始終苦しめた火災への抵抗こそが、このような建築形状・形態を出現させた。周知のように函館は明治はじめよりしばしば大火に見舞われてきた。最後のものは昭和9（1934）年の大火であるが、以来75年間は幸いにもおこってはいない。

竣工時の絵葉書をみると、避難通路であるアーチ状の三連の開口部は常時開放されていたことがわかる。というのも、正面入って左側に函館図書館分館が、右側に柔道室があつて、まさに地域に開かれた公共施設でもあつて、その時代の公共という概念がよく示された建築空間ともいえる。すなわち単に小学校の建築にとどまらないといった点に特徴がある。



弥生小学校通路の正面

4. 建築的特質

わが国で唯一現存する4階建校舎であり、斜面という特性をたくみに活用したプランをみせる。すなわち地階は正面の道路のレベル、1階は下段の運動場のレベル、二階は屋内体操場・北西ならびに南東側坂道に接した児童昇降口・上段の運動場のレベル、と三層のレベルにわたって接地している。

その高低差をつなぐために用いられたのが、斜路、スロープだった。それは近代建築の巨匠ル・コルビュジェが挙げたモダニズム建築の造形言語のひとつとして有名なものであった。斜路は屋内体操場のある上段の校庭とより広いグラウンドである下段の校庭とを繋ぐ際にも使われていた。それは市民が学校の校庭に逃げ込む際の下段校庭に掘り込まれた斜路とは対極に、青柳小学校の正門で用いられた斜路と同じく、可視的な構築物となる。その中央には指揮台が設けられ、その背面壁にはタイルが貼られ、中心性を示し、内庭を飾る。青柳小学校と共通して、シンメトリの形態となる。違いはアーチ状の開口が左右に三連ずつ取り付け、より造形性を強調している点にあ



弥生小学校斜路と校庭

る。

建築スタイルをみると、この建物の正面は彌生坂と海側道路が交わる角部にあつて、その出隅部分だけに額縁状にパラペット上部まで垂直に柱型が突出し、玄関であることを強調する。一層部の底は大きく張り出し、パラペットも前面に迫り出す。またその角部の両横の2つ目の開口部までは窓台ならびに底が水平に設けられ、正面部の中心性をより強調する意匠となる。一方で東坂と海側の道路が交わる角



弥生小学校全景

部は児童昇降口で、意匠上の特別な取扱はなされておらず、柱型が内側に設けられ、外壁はフラットという校舎全体に共通する仕様になっている。階段部には丸窓が嵌る。竣工直前の写真からは、開口部はスチールの上げ下げ窓になっていたことがわかる。ここからは比較的シンプルなファサードのデザインとしてつくられていたことがわかる。それは時代的な背景も関連する。1930年代以降は、建築意匠の流行はモダンデザインが主流になりつつあつて、この建物も広義の意味ではその影響を受けていたと捉えることができる。



弥生小学校竣工直前

歴風人シリーズ 1

奥平忠志先生を悼む

運営委員 新城光正



先生が最後に公式行事に参加されたのは、2007年2月上旬大沼で開催された“雪と氷の祭典”でした。先生の運転で大沼の会場に向かい祭典の点火式を行ったのですが、真冬の中の季節外れの土砂降りの雨“晴天男”を自称した先生もこの日ばかりはびしょ

濡れでした。

この頃先生は函館で初めての歴史文化観光検定である“はこだて検定”公式テキスト編集会議の編集長としての職務があり、その監修後、トルコに旅立たれ不慮の事故に遭うことになります。

先生との出会いは、先生が大学を卒業し1958年函館西高等学校に赴任され、私も同年に西校に入学します。そしてクラブ活動は地学部に入り、このクラブの顧問が先生でした。鉱石の採掘と一緒に野外に出かけテント持参で寝起きをともにしましたが、実際は採掘よりは遊びが主で、先生という趣味である川釣りを楽しんでいました。

高校3年になり初めて先生の地学授業を受け教わりました。当時理科系は1、2年で生物、化学が必修、3年で物理か地学の選択で、地学を取る学生は少なかったと記憶しております。

先生はその後函館高専の講師として転任しますが、私の弟が高専に入学し又も先生の授業を受けることになります。

先生は函館の歴史的風土の会に参加し函館のまちづくりに対し色々な提言をされました。北洋漁業の廃止、青函連絡船の廃止、造船不況で落込む函館の経済の中で、ウォーターフロント周辺の倉庫群や歴史的建造物の再利用を提案され“新たな国際観光都市”として再出発させた功績はその後の観光客の急増に繋がり、現在では函館の基盤産業となっています。

先生が常に“学び”について説かれ、貪欲な知識の吸収から発する先見的洞察力とそれにとまなう行動力には、誰もが敬服するところです。

先生が最後に残した“はこだて検定”公式テキストブックは、函館を知り、学び、そして行動する教書です。昨年上級試験を受けましたが見事不合格、今年も多くのことを教書から学びましたが、力及ばずだめだと思ひます。

来年もこの教書を通じて先生と対面しながら“追悼試験”として挑戦していくつもりです。

トピックス

第25回（平成20年）再生保存建築物として歴風文化賞を受賞された沼崎弥太郎氏は、その記念として、建物と賞状文の写真を刷り込んだ「函館バス・市電共通乗車カード」を多数寄贈して下さいました。授賞式には受賞者を代表された謝辞の中で自宅ばかりでなく、経営する「南北海道電子計算センター」の社屋も昭和63年に受賞されており、二重の喜びであり、今後共大切に使用されると決意を述べられました。

平成20年9月20日の歴風創立30周年記念には函館商工会議所副会頭の激務の中、御出席され、祝辞をいただきました。平成21年5月12日夜、急性肺炎で急逝されたことが報道され、あまりの突然の訃報に愕然としております。

心から御冥福をお祈りします。



ゴライアスクレーン撤去される



高さ70m、巾110m、紅白の門形ゴライアスクレーンが、平成21年6月21日から同26日にかけて撤去された。神戸から6月15日入港した海上起重機船（重さ2,000トン2本アーム）に吊り下げられ輪切りにされ、30年余の使命を終えた。

函館山の景観を汚すと批判されたクレーンも市内の何処からも眺められた30年の実績(?)は今では市民にとっては懐かしい存在となり、平成6年に歴風会で「函館どっくのクレーン風景」として原風景宣言をしている。

バブル経済・石油危機・世界遺産として保存すべき・維持費がかかりすぎると賛否渦巻く造船界の変遷を目のあたりにした思いである。

対馬栄子運営委員ステージ披露



8月10日開港150周年記念イベント会場「ドリームBOX150」（緑の島）の市民ステージで、対馬歴風会運営委員が“鐘は上野か浅草か…”の粋でいなせな『助六桜』とアメリカ外交官ハリスとの悲恋『唐人お吉物語』を30分間披露した。

五島軒130周年

若山直歴風副会長の経営する「五島軒」は本年、創業130周年を迎えられました。

歴風会も創立以来、「五島軒」には大変お世話をいただいております。函館文化の歴史そのままの姿に深く感服しており、6月24日開催された祝賀パーティには沢山の人々が参集いたしました。

ますますの御発展心から御祈念申し上げます。



会 務 日 誌

- H20. 6. 22
平成20年度 歴風会定期総会
講演「歴風会中興の歴史」浜島国四郎（元会長）
- H20. 8. 2
歴風会創立30周年記念祝賀会実行委員会
- H20. 9. 20
創立30周年記念誌出版祝賀会 84名出席
- H20. 10. 6
弥生小・西小学校統合に関わる緊急勉強会
- H20. 10. 10～12
開港5都市景観まちづくり会議函館大会186名参加
- H20. 10. 30
『五稜郭公園の世界遺産登録運動』の件で、清野・佐々木・石井会員、フィリップ・グロード神父を訪問
- H21. 2. 6
「第6回ふるさと写真公募展」選考委員会12名参加
- H21. 2. 13～18
ふるさと写真コンクール展示会 函館駅イカすホール 191点出展
- H21. 2. 15
入賞者表彰式（新城・林・石黒会員担当）
- H21. 2. 12
石井会員と会長、市役所記者クラブと市広報室で事業説明
- H21. 2. 20
第26回歴風文化賞授与・町並み基金贈呈式
第31回新春チャリティーパーティー 202名参加

予告

- ☆H21. 11. 13～15
第32回 全国町なみゼミ「佐原・成田大会」
- ☆H21. 8. 23 プレゼミナール「佐原・成田大会」
- 第33回 全国町なみゼミ盛岡大会（平成22年度）
- 第34回 全国町なみゼミ飛田大会（平成23年度）
- 第35回 全国町なみゼミ福岡大会（平成24年度）
- 第36回 全国町なみゼミ喜多方大会（平成25年度）

- H21. 3. 3～8
「地域交流まちづくりセンター」で「ふるさと写真展」作品を特別展示
- H21. 3. 12～23
「ふるさと写真展」作品を市電内に特別展示する
- H21. 3. 22
開港150周年カウントダウンイベントに参加
- H21. 6. 2
市教委より弥生小改築計画の説明を落合一人で受ける
- 同日PM6時
弥生小父兄有志の会に落合・林会員出席
- H21. 6. 14
平成21年度 歴風会定期総会
- H21. 6. 15
道新の取材あり、6人出席
- H21. 6. 24
若山副会長の経営する「五島軒」130周年記念式典に多数の会員参加
- H21. 7. 1
函館開港150周年記念式典
- H21. 7. 4
弥生小リノベーション
- H21. 7. 9
吉村副会長、道立函館美術館で講演
- H21. 8. 30
第5回NPOまつり パネル展参加

寄贈文献

- | | |
|------------------|------------|
| 「2008年函館港要覧」 | 函館市港湾空港部 |
| 「ぶんぽけん」No.183 | 大野文化財保護研究会 |
| 「町並みかわら版」(No.45) | 全国町並み保存連盟 |
| 「妻籠宿」(No.86) | （財）妻籠を愛する会 |
| 「藍流」・「幹」 | 有松まち普請の会 |
| 「有松」(No.60) | 有松まちづくりの会 |
| 全国町並みゼミ「卯之町大会」 | 愛媛県西予市 |
| 「きーすとーん」No.52 | 札幌建築鑑賞会通信 |

*** 編 集 後 記 ***

- ◇前期は80号・81号の合併号という失体演じた。
- ◇今年こそはと意気込んだが、開港五都市景観まちづくり函館大会報告や、開港150周年のイベント報告等々、会員相互のコミュニティ誌をめざしながら、やはり時間との戦いを痛感した。
- ◇弥生小学校の改築について神戸女学院大学川島智生先生の玉稿をいただいた。
- …見た目とは逆に、戦前特に関東大震災から昭和14年（1935）までの12年間の建物はもっとも強く、戦前期函館市が築き得た最高の建築物である。…弥生小学校では防火・耐火の思想が建築校舎に如実に反映されている…この建物は単に小学校舎だけ

- でなく函館という都市の記憶をもっとも体現する建物…先生のこのレポートを読み進むうち、函館の文化と歴史が又一つ消されようとしている現実に直面して、創立30年の「歴風会」は一体何をしているのかと一喝された思いである。
- ◇30周年記念誌「函館の歴史と風土」の活用を最重点にすすめたい。
- ◇今号より「歴風人シリーズ」を掲載した。次号は「會田金吾」氏の予定。そしてグロード神父から提案された五稜郭の世界遺産登録についてを特集する。
- ◇今号の写真は上田邦孝氏・対馬（誠）・石井・林・対馬（栄）・新城会員・函館市都市デザイン課の皆様によった。

（文責 落合治彦）